

# 思考スタイルに基づく協調活動支援

0632152 横田 翔

指導教員 山崎 治 助教

## 1. はじめに

最近、「協調」という言葉を耳にする機会が多い。職場や学校、近所の人との付き合いなど、日常生活の中で協調活動をする機会は多く、避けられないこともある。そこで他人と円滑に協調活動を行う為に、どのような要因が関係しているのか調べている研究が多々存在している。

本研究では「思考スタイル」という要因に着目していく。様々な思考スタイルの組み合わせから、協調活動を行った場合の優れている点や劣っている点を探っていくことが目的である。

そこで、実験参加者の思考スタイルを確認し、タイプ分けを行うための「アンケート」と協調性を必要とする課題に取り組む「実験」の2段階で行う。

## 2. アンケート

質問紙から思考スタイルを判別し、実験に参加を依頼するペアを作ることを目的とした。アンケートは、R.J.スターンバーグにより提案されている質問項目を利用した質問紙 (Sternberg 1997) で、本学の学生を対象とした調査を行う。

思考スタイルを判定する為のアンケートは、59名を対象とした。その内、立案型が23名、順守型が26名、評価型が10名であった。

## 3. 実験

### 3-1. 方法

立案型同士を3組、順守型同士を3組、立案型・順守型の組み合わせを3組の計9組18名を実験参加者とした。

実験課題は本学の大学祭のイベントを考案し、案内用の見取り図を作成するものであった。制限時間は20分とした。課題に取り組んでいる際のペアの行動や発話をビデオカメラで記録し、分析対象のデータとした。

### 3-2. 分析の方法

分析は、発言・行動のカテゴリ分析と作成された見取り図の評価の2つの観点から行う。

1. 録画した実験動画から発言や仕草をすべてテキスト化し、発言・行動内容のカテゴリ分けを行う。ペアごとに比較し、思考スタイルとの関連性を調べる。

2. 作成された見取り図を、「アイデア・提案数」「正確性・丁寧さ」「見やすさ」「興味・関心の惹きやすさ」の項目で評価をする。

## 3-3. 発言・行動分析

ペアの二人を参加者Aと参加者Bに分け、AとBそれぞれの発言・行動のタイプの割合を表1にまとめた。

表1 ペア毎の発話タイプの割合

	参加者A			参加者B		
	立案的発言	順守的発言	評価的発言	立案的発言	順守的発言	評価的発言
立案・立案	31.3%	50.6%	18.1%	63.8%	19.8%	16.4%
	31.6%	50.0%	18.4%	50.9%	33.9%	15.2%
	45.6%	34.0%	20.4%	55.1%	18.4%	26.5%
立案・順守	56.3%	24.0%	19.8%	41.5%	40.2%	18.3%
	57.5%	20.0%	22.5%	35.6%	51.1%	13.3%
	45.1%	31.0%	23.9%	48.0%	22.0%	30.0%
順守・順守	56.1%	19.5%	24.4%	35.3%	47.1%	17.6%
	39.7%	39.7%	20.6%	32.8%	46.9%	20.3%
	46.2%	30.8%	23.1%	28.6%	42.9%	28.6%

立案型同士のペアでは、二人が立案係と順守係で分かれることが多いことがわかる。また、順守型同士のペアにおいても同様の傾向がみられた。立案型・順守型のペアでは、立案型の人には立案的発言・行動の割合が高くなり、順守型の人には順守的発言・行動の割合が高くなる傾向も読み取ることができる。

### 3-4. 見取り図の評価

立案型同士のペアではイベントの立案数も多かったが、興味・関心の項目や新しさの項目からイベント内容の質も良いものであった。しかし、他のペアの見取り図よりも正確性には欠けていた。

反対に、順守型同士のペアが作成した見取り図は正確性が高く、イベント内容の興味・関心の惹きやすさ、新しさの項目では評価が低くなった。

立案型・順守型のペアの評価値は他のペアの評価値の中間に位置することが多かったが、見やすさの項目では他のペアよりも低い評価となった。

## 4. おわりに

思考スタイル別にペアを分けた場合、協調活動の過程や結果に違いが生じることが明らかになった。また、立案型と順守型の思考スタイルの組み合わせ方で優れている面と劣っている面の違いも明らかになった。

課題の性質に合わせたペアの組み合わせを提案することで、協調活動を支援することにつながるかと期待される。

## 参考文献

Sternberg, R.J. (1997). THINKING STYLES

Cambridge University Press (R.J.スターンバーグ (著) 松村・比留間太白(訳) (2000). 思考スタイル—能力を生かすもの— 初版 新曜社)